

特集

私のまちの 図書館は、

読書の秋。
曾於市の図書館、行ったことがあるでしょうか？
実は色んなこと、やっってるんです。

ここで十数万の物語たちが、
手に取られるのを、
読んでもらうのを、
待っています。



私のまちの図書館は、

曾於市立図書館です。



財部と大隅に
分館もあるよ



曾於市にある図書館は3つ。末吉にある本館と、大隅と財部に分館があります。全館の来館者数は年間でおおよそ7万人にのぼります。蔵書数もおおよそ18万冊とかなりの数です。

館内は、イベントに合わせて装飾がされて楽しい雰囲気。取材に伺ったのは、10月半ば。そこかしこにカボチャのモチーフが飾られていました。職員でどんなものかいいか、毎回頭を悩ませながら作られているそう。これがキッカケで、本を手にする機会も増えそうです。この日も、走って図書館に入ってきた子どもがハロウィーンの装飾の前で、興味深そうに足を止めていました。

そして、棚の上というデッドスペースになってしまいうような場所には、末吉中学校の生徒さんが描いたおすすめ本が紹介されています。そこだけではなく、テーマ別に机に並べられた本のコーナーがいくつもありました。テーマも「敬老の日」や「本で泣く…秋」など様々。「何を読めばいいかわからない」という人にはぴったりです。

普段本を読まない人も図書館に立ち寄ってみたら、何か新しい発見があるかもしれません。

末吉町へ
大隅町へ
財部町へ
いっぱいの本を載せて、
今日もさんぺい号は走ります。

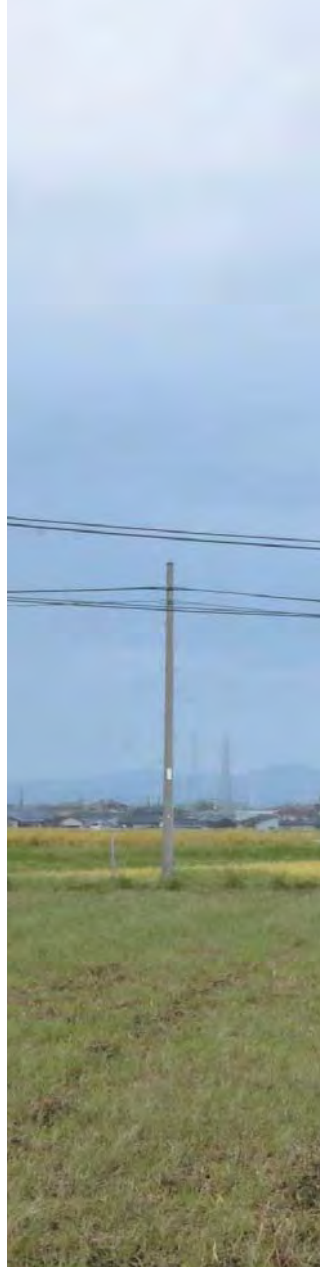


私のまちの図書館は、

移動図書館 やってます。



みんな本が
好きだニャ〜



曾於市の移動図書館は、「さんぺい号」といい、1号と2号の2台で運行しています。なぜ「さんぺい号」なのかというと、この移動図書館が始まったのが平成3年のこと。その「3」と「平」をとって、「さんぺい号」になったそうです。

行く場所は、幼稚園に保育園、小学校や中学校など日によって様々。およそ3500冊の本を載せて、図書館から遠い地域を中心に北へ南へ、本の貸し出しを行うために移動します。

さんぺい号が着くと、子どもたちが駆け足でやってきます。どんな本を選んだか友達と見せ合う子たちや、一人でじっくり中身を吟味する子、即決で貸し出しに向かう子。どの子も本選びを楽しんでいました。

園児たちも、それはもう真剣に本を選んでいて、引率の先生は「もう《読みたい本》を自分でしっかり選んでいるみたいで、こっちがこれはどう?とか言っても、『嫌!』と断られたりするんです(笑)」と、外から見守られていました。

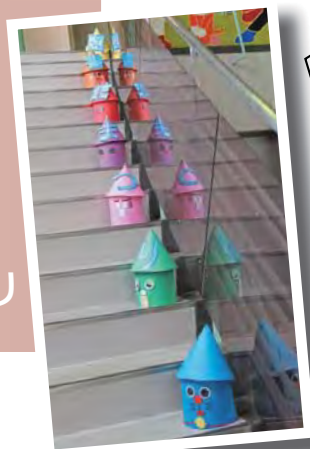
曾於市を巡る移動図書館「さんぺい号」。きつと今日も、本を求める人たちのために走っています。



私のまちの図書館は、

館内イベント

やっています。



ぜひ図書館に
遊びに来てください



2016.7.23-24
図書館まつり



2016.8.27
絵本作家 高畠那生さん
ワークショップ

毎月、本館・分館でお話し会もやっています。
詳しくは図書館だより (P.30) でチェック!



【財部】

ランチのアッコちゃん 柚木麻子

「アッコ女史からの今日のランチの指令は…」前向きで軽妙洒脱、読んでおいしい短編集。



【大隅】 ホクトのきのこレシピ ホクト

“きのこ会社”ホクトがおくる、おかずに、ごはん、おつまみに…。おいしく食べるきのこレシピ集。

【末吉本館】

あつあつを召し上げれ 小川糸

幸福な食卓、運命の料理とのふいの出会いを描き、深い感動を誘う、7つの物語。



食べる。

私のまちの図書館は、

おすすめ

します。



曾於市。



【末吉本館】 わらべ歳時記 稲積幸男

曾於市出身の著者が描く、昭和30年代初めの風景。「失われた時」を絵と文で振り返る。

【大隅】

「弥五郎どん」は何者か 山口保明

御霊信仰を軸に、隼人伝承、八幡信仰や放生会、農耕神事などの民俗的舞台を探る。



【財部】 83歳の女子高生球児 上中別府チエ

83歳で女子高生球児となった曾於市出身の著者が、学ぶこと、生きることのすばらしさを綴った一冊。

旅へ。

【大隅】

奇界紀行 佐藤健寿

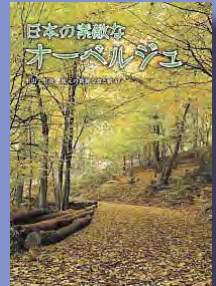
「見るもの、出会う人、みな奇妙。」奇界なる旅の全貌を綴った本格フォトエッセイ。



【財部】

日本の素敵なオーベルジュ 平野陽三

オーベルジュとは、フランス語で「宿」のこと。それぞれ自慢の食事を提供する、珠玉の宿をご紹介します。



【末吉本館】

旅に出るなら 一休.com

旅に出るなら、いつまでも思い出に残る宿に泊まりたいもの。全国の選りすぐりの素敵な宿を掲載。



【末吉本館】

私は、100歳 長岡三重子

水泳を始めたのは80歳。今も世界記録を次々と打ち立てている著者の人生から学ぶ。



【大隅】

あと少し、もう少し 瀬尾まいこ

寄せ集めのメンバーと頼りない先生の元で、中学生最後の駅伝に臨む生徒たちを描いた青春小説。



【財部】

いっしょに走ろう 道下美里

病で視力を失う過酷な現実の中、走ることに生きる役割を見出した。その劇的な半生を綴る。



動く。